

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 4 区分

【発行日】平成20年11月6日(2008.11.6)

【公開番号】特開2006-152443(P2006-152443A)

【公開日】平成18年6月15日(2006.6.15)

【年通号数】公開・登録公報2006-023

【出願番号】特願2005-370366(P2005-370366)

【国際特許分類】

C 2 3 C 14/34 (2006.01)

C 0 4 B 35/453 (2006.01)

C 0 4 B 35/00 (2006.01)

G 1 1 B 7/254 (2006.01)

G 1 1 B 7/257 (2006.01)

G 1 1 B 7/26 (2006.01)

【F I】

C 2 3 C 14/34 A

C 0 4 B 35/00 P

C 0 4 B 35/00 J

G 1 1 B 7/24 5 3 4 N

G 1 1 B 7/26 5 3 1

【手続補正書】

【提出日】平成20年9月24日(2008.9.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

A、B は其々異なる 3 価以上の陽性元素であり、その価数を其々 K_a 、 K_b としたとき、 $A_x B_y O_{(K_a x + K_b y)/2} (ZnO)_m$ 、 $0 < X < 2$ 、 $Y = 2 - X$ 、 $1 \leq m$ を満たす酸化亜鉛を主成分とする化合物とカルコゲン化亜鉛を含有し、カルコゲン化亜鉛の含有量は $2\theta = 20 \sim 60^\circ$ における未成膜ガラス基板に対する最大ピーク強度比が $2.0 \sim 1.0$ である非晶質性を示す含有量であることを特徴とする光情報記録媒体用薄膜。

【請求項 2】

カルコゲン化亜鉛の含有量が、 $2\theta = 20 \sim 60^\circ$ における未成膜ガラス基板に対する最大ピーク強度比が $1.6 \sim 1.0$ である非晶質性を示す含有量であることを特徴とする請求項 1 記載の光情報記録媒体用薄膜。

【請求項 3】

A、B は其々異なる 3 価以上の陽性元素であり、その価数を其々 K_a 、 K_b としたとき、 $A_x B_y O_{(K_a x + K_b y)/2} (ZnO)_m$ 、 $0 < X < 2$ 、 $Y = 2 - X$ 、 $1 \leq m$ を満たす酸化亜鉛を主成分とする化合物とカルコゲン化亜鉛を含有すると共に、酸化亜鉛を主成分とした $A_x B_y O_{(K_a x + K_b y)/2} (ZnO)_m$ 化合物がカルコゲン化亜鉛に対して体積比率で 25% 以上含むことを特徴とする光情報記録媒体用薄膜。

【請求項 4】

酸化亜鉛を主成分とした $A_x B_y O_{(K_a x + K_b y)/2} (ZnO)_m$ 化合物がカルコゲン化亜鉛に対して体積比率で 25% 以上含むことを特徴とする請求項 1 又は 2 記載の光情報記録媒体用薄膜。

【請求項 5】

2 mを満たす酸化亜鉛を主成分とする化合物を含有することを特徴とする請求項 1 ~ 4 のいずれかに記載の光情報記録媒体用薄膜。

【請求項 6】

A がインジウムであることを特徴とする請求項 1 ~ 5 のいずれかに記載の光情報記録媒体用薄膜。

【請求項 7】

記録層と隣接して使用されることを特徴とする請求項 1 ~ 6 のいずれかに記載の光情報記録媒体用薄膜。